

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
主査（臨床検査技師）	中井 信子
（臨床検査技師）	伊藤 歌奈己
（臨床検査技師）	岩橋 孝祐
（臨床検査技師）	宮内 雅哉
（臨床検査技師）	砂田 恵利
（事務員）	藤井 光子

—概要—

病理検査科の業務は、組織診、細胞診に大別される。病変の一部を採取する生検組織診、手術によって摘出された標本の組織型の診断、病変の広がり、転移の有無、術中の切除断端の評価を行う術中迅速組織検査や、病理解剖からなっている。病理医による、最終診断(確定診断)を行うため、病理診断は、診療において重要な役割を果たしている。

近年、病理検体を用いた遺伝子関連検査の件数が年々増加している。検体DNAの良好な保存状態が重要である。質の高い標本作製が求められるため、さらなる病理技術向上に努めていく。

今年度の構成員は、臨床検査技師5名(うち細胞検査士4名)事務員1名、計6名で業務を行っている。

—実績—

組織診は年5%程度、右肩上がりに件数が増加していたが、昨年度はコロナの影響で減少していた。今年度は、前年度を上回った。術中迅速検査(組織診、細胞診)は250件近く実施した。OSNA(直接遺伝子増幅)法によるリンパ節転移検査は、昨年度より増加した。細胞診は、ここ数年減少傾向にある。病理解剖は、8件実施した。10件以上を維持するため努力しているが、目標達成には至らなかった。病理解剖症例を対象とした、CPC(臨床病理検討会)は年4回開催している。定期的に行われている(乳腺カンファレンス)に組織像を提示し参加している。

2022年度月別病理検査件数(入院・外来)

検査別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織診	331	385	400	340	340	374	369	335	375	375	358	391	4,373
術中迅速組織診	17	13	8	6	6	3	12	11	12	12	13	8	121
診断のみ(借用標本)	2	2	3	3	4	3	2	1	3	1	4	2	30
OSNA法	6	6	5	3	2	1	4	1	4	1	4	5	42
迅速診段(OSNA法)	3	6	4	2	8	3	7	1	1	2	4	1	42
セルブロック法	1	0	2	2	0	0	0	1	1	0	1	1	9
細胞診(婦人科材料)	153	140	260	210	124	205	258	216	161	148	146	183	2,204
細胞診(その他材料)	172	133	174	162	157	162	185	140	183	146	135	185	1,934
術中迅速細胞診	10	11	4	7	3	2	8	5	7	9	6	5	77
病理解剖	0	1	0	1	0	1	0	1	1	0	1	2	8

—今年度の成果と反省点—

組織診件数は年間4,000件、術中迅速診断は200件を超えていることは、高度な医療が実践されていると考える。病理解剖については、8例施行された。年間10例を目標にしているが、今年度は2例目標に及ばなかった。

—来年度への抱負—

人材の育成、技術向上を目指す。細胞診において、液状化細胞診(LBC)等、新たな手法による検査業務の拡充を図るため、新たな機器導入を要望する。

次年度、地域連携の一環として、病理組織検査の受託業務が想定されている。検査件数の増加が見込まれるため、業務内容の効率化を検討していく。

—認定検査士—

細胞検査士4名(国際細胞検査士1名)

遺伝子分析科学認定士(初級)1名

臨床病理同学院 二級臨床病理技術士(病理)1名

特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任3名